

開催日 : 2011年11月12日(土)
場所 : 江ノ島ヨットハーバー会議室
出席者 : 顧問2名 役員=16名 委任状=5名で理事会は成立

冒頭、川村理事より東日本大震災の支援にお礼の挨拶があった。
「やっとセーリングできる状態になった。皆さんの心温まる支援に本当に感謝している。」

議 事

1. 2012年度の計画

・全日本選手権

- (1) 全日本スナイプ 境港で実施する事に決定。11月の西半球選手権との関係を考慮必要だが、開催地の事情優先で日程を決める。11月上旬が本命。
- (2) 全日本ジュニア 和歌山のオリ特に合流するのが有力だが、確定していない。
スナイプ単独で行う場合は琵琶湖の同志社ウイークに併合して実施も検討。
- (3) 全日本マスターズ 広島観音マリーナで開催。9月8、9日に決定。
- (4) 全日本女子 7月または8月に江ノ島で開催。他のレース(関東スナイプ)と同時スタートも検討する。
- (5) その他 実業団大会(国体リハーサル)(東京)は9月15~17日

- ・世界選手権 女子ワールド 9月18~23日 スペイン
- マスターズワールド 9月11~16日 スペイン
- 西半球選手権 11月19日~25日 アルゼンチン

2. 会計報告

(1) 2011年中間報告

事務局などの努力により、健全な会計状態が維持できている。
会員登録1,000名が目標であるがクリアできており、満足できる状態。(野元会長)
東北水域(宮城)艇登録料、会員登録料、フリート料を免除。
東日本に対して関東スナイプ協会が強力に支援している事の報告があった。(山本顧問)
2011年ルールブック販売代金の納入を12月末までに行う事。在庫は継続して販売。

(2) 2012年予算

全日本マスターズと女子の補助金を分離して計上する。(各7.5万円)
スナイプフェスティバル普及補助金は残しておく。
西半球選手権への出場チームへの補助は1チーム10万円とし、8チーム分の80万円を計上しておく。出場チーム数が8チーム未満でもチームあたり10万円は不変。

3. 2011年事業報告

(1) 全日本スナイプ

63チーム出場、風に恵まれて、12日時点、8レースを消化している。

- (2) 全日本マスターズ 資料参照
- (3) 全日本インカレ 風がなく運営・選手共に苦労したが、スナイプ級は日本大学が優勝
- (4) 全日本女子 資料参照
- (5) 全日本実業団 資料参照

4. 各水域・部門より報告

- (1) 北海道 2013年度の全日本スナイプはハーバーの規模から江差町を本命に検討中。
江差町には開催を申し入れ済みであり、これに対して財政難につき、金銭的な支援は出来ないが、宿舍の手配斡旋などの支援は惜しまないとの実務担当からの回答があった。今後町長の承認を得て、正式に支援体制を作っていただくことになる。
大会の経済的な成立のためには50艇以上の参加が必要。
- (2) 東北 関係者各位の支援に感謝。
- (3) 北陸 金沢大学の活動がメイン。会員増加に努力する。
- (4) 関東 会員登録333名。東北大学ヨット部をフリートレースに招待し、全日本を代替開催した。今後、学連OBや社会人新人の受け皿となってゆきたい。
- (5) 中部 昨年よりALLトヨタレースを年間7レース行っている。
- (6) 琵琶湖 同志社ウイークは震災のため中止。学連の若手OBがポイントレースを実施している。これを核に盛り上げてゆきたい。
- (7) 中国 登録数は微増。来年の全日本（境港）に向けてレース公示などの資料提供を希望。
- (8) 四国 資料参照
- (9) 九州 資料参照
- (10) 計測 2013年よりセールフルバテン化の情報があり、フォローしてゆく。
USA SCIRAの要望でフルバテンのテストセールを製作した。（白石理事）
セールの新計測方法の適用は、日本においては2012年12月31日までは行わない。この事は文書で日本のメンバーに通達する。
パウラインの変更についての背景説明あり。
- (11) ジュニア 資料参照

5. JSAFオリ特・ジュニア窓口担当の推薦（日本スナイプ協会から1名）
各役員は11月末までに事務局に連絡の事。若手（30歳代）が好ましい。
推薦者多数の場合は会長、理事長、事務局で絞込みを行う。

6. 東北水域のメンバー・艇の登録費免除
2012年度も継続する事を全員一致で決定した。

7. 国際大会の日本での開催について
他国の協会より日本での開催に強い要望がでており、現在その受け皿は無いものの開催を決心する必要がある。
費用は800万円程度あれば良いと思うが、地元メンバーの事務作業、レース運営などの時間的な負担は大きい。（桑野理事長）
過去750万円で国際大会を行った実績はあるが、地元の強力な経済的・作業工数面での支援が必要。経済面では程度のよいチャーター艇の安価な提供など。（山本顧問）
まず、マスターズまたは女子の国際大会を、世界平和を訴求できる広島や長崎で開催する事を検討したい。（桑野理事長）

8. 学連からの理事派遣について
学連協会員の意見吸い上げや協会活動への更なる参画を図るため、学連から理事を派遣いただくことの提案が桑野理事長からあり、全員の賛成を得られた。
今後、桑野理事長が学連のトップに理事派遣のお願いをし、次回理事会までに学連理事を決定する。

9. 役員改選

- (1) 理事 ①琵琶湖 井田さんから宮崎さんへ交代。井田さんは広報を継続担当。
②九州 古賀さんから伊地知さんに交代。古賀さんは副会長として留任。

- (2) 理事長 桑野さんから栗原さんへ交代,
- (3) 副理事長 栗原さんから桑野さんに交代
- (4) 会長 野元さん留任
- (5) 事務局、計測委員長、強化、ジュニア、女子などの専任理事は留任。

10. 名誉会長 平田さんご逝去に関して

平田さんの協会での業績を後世に伝えるために、全日本スナイプに持ち回りの平田記念杯をいただき、優勝者に授与する。

30万円程度の資金提供をご遺族にお願いすることにし、この申し入れ文書を事務局が作成し、松本顧問がご遺族と調整する。

11. 翌年の全日本スナイプへのシード枠

当年の全日本スナイプ5位までとし、変更しない事を確認した。

12. 全日本スナイプへの参加チーム推薦

所属外水域から、その水域予選会に参加していないチームが推薦を受けて参加することは認めない事を確認した。

13. 各水域の会計状態調査

理事長より各水域の収入と支出の概略を提出するよう要請があった。この背景に、水域担当理事の活動資金の手当てができておらず、活動費用が水域理事の自己負担に頼っている状態である事の懸念がある。

年内に各水域の実情を事務局に報告の事。

14. 次回理事会

2012年2月を予定しているが、報告事項はメールで、会計関係は文書郵送とそれへの文書承認で行い、これで会議に代え、交通費などの会議経費の節約を図る。